あとがき　～子どもたちのふしぎを育てる「科学の芽」賞～

溝上　智恵子

『もっと知りたい！「科学の芽」の世界』シリーズは，筑波大学が主催しております「科学の芽」賞の受賞作品を掲載した書籍です。「科学の芽」賞受賞作品のすべてを第1回目から掲載しており，2008年から2年ごとに発行されています。本書『もっと知りたい！「科学の芽」の世界 PART8』は，第15回（2020年度）と第16回（2021年度）の「科学の芽」賞受賞作品を掲載しています。

「科学の芽」賞は，全国の小学生・中学生・高校生を対象として，自然や科学への関心や思いを育てることを目的として行われている科学コンテストです。筑波大学の前身である東京教育大学の学長を務め（1956年～1961年），1965年にノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎先生の功績を称え，筑波大学における「朝永振一郎博士生誕100年記念事業」の一環として，2006年にはじまって以来，毎年実施しています。小学生から高校生を対象とした科学コンテストには様々なものがありますが，本賞は，一つの大学が全国の小・中・高校生を対象として実施しているコンテストとして唯一のものといえます。

第1回目（2006年度）の応募総数は645 件でしたが，本書に掲載されている第15回目は2,116 件，第16 回目は2,441 件を数え，国内外から多数の応募をいただきました。これまでに応募いただいた海外の国と地域には，中華人民共和国，大韓民国，タイ王国，マレーシア，インド，イラン・イスラム共和国，ハンガリー共和国，イタリア共和国，ポーランド共和国などがあります。一方，「科学の芽」賞受賞数は，毎回大きく変わらず，小学生部門7～11件，中学生部門6～9件，高校生部門1～3件で推移しています。

なお，「科学の芽」賞には，「科学の芽」賞のほかに，「科学の芽」奨励賞，「科学の芽」努力賞，「科学の芽」学校奨励賞がありますが，第11回目より「科学の芽」探究賞を新たに創設しました。探究賞は，第11回目の募集から，特別支援学校（知的障害）の児童・生徒さんからも応募いただくようになり，その姿勢を表彰するために設けたものです。

「科学の芽」賞受賞作品は，大人顔負けの最先端の研究成果というよりも，むしろ子どもたちが素直な眼で見て感じた世界のふしぎを，それぞれの発想や工夫により解明しようとした作品が多く含まれています。これが，本シリーズの特色であり，「科学の芽」賞の特徴でもあるといえます。本シリーズは，科学を通して世界に向き合う子どもたちの独創的な発想や姿勢を大人たちに示してくれるものです。また，夏休みの自由研究など子どもたちの研究を指導される学校の先生方や保護者の方々，そして，何よりも身の回りのいろいろな事柄に『なぜだろう？』，『なんだろう？』とふしぎの眼を向ける子どもたちに役立てていただけるものと考えています。

ところで，「科学の芽」賞の名称の「科学の芽」ということばは，朝永先生が書かれた色紙のことばから引用されたものです。

ふしぎだと思うこと　これが科学の芽です
よく観察してたしかめ　そして考えること　これが科学の茎です
そうして最後になぞがとける　これが科学の花です

この朝永先生のことばには，科学することの流れが述べられています。しかし自然科学に限らず，あらゆる学びに共通することを表しているともいえるのではないでしょうか。

「科学の芽」賞は，誰もが感心するような高度な研究だけを求めるものではありません。これからも，ふしぎだなと感じる子どもたちの「科学の芽」を大切に育てていきたいと考えています。本書をご覧いただいている大人の方たちにも，子どもたちのそうした素朴な疑問を大事にしていただければと思っております。

今後とも，「科学の芽」賞へのご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

［「科学の芽」賞実行委員会委員長］